**ロータリーデー記念事業**

**それぞれの最上川物語　第３章**

最上川物語を提唱した伊藤三之パストガバナーの言葉を引用します。

国際ロータリー第2800地区の対象エリアは、山形県全域です。幸いにも、私たちの地区は行政単位と一致した非常にまとまりのある地区構成です。

さて、山形県の母なる川、最上川。—つの都府県内で完結する河川としては日本一の長さ（229キロ）を誇ります。米沢の西吾妻山を水源とし、県内の数多くの市町村内を流れ、酒田の日本海にそそぎ込みます。私たちの地区の第１グループから第6グループの全てを網羅しているのです。

＜広き野をながれゆけども最上川　うみに入るまでにごらざりけり＞

山形県民の歌「最上川」。この歌は、昭和天皇が皇太子でおられた大正14年に山形県に行啓されご覧になった最上川の様子を､その翌大正15年の歌会始においておよみになられたものです。

松尾芭蕉は「奥の細道」紀行（1689年）で、次のような句を残しています。

＜閑かさや　岩にしみ入る蝉の声＞

＜五月雨を　あつめて早し最上川＞

＜暑き日を　海に入れたり最上川＞

私たちのふるさと山形の山、川、海の、厳粛さ、清涼さ、雄大さを見事に表現しています。

ふるさとの母なる川、最上川。いにしえより恵みを運ぶ大動脈。未来に豊かで美しい最上川を引き継いでいくために、最上川をステージにして、地区内全てのグループが一丸となって、環境をテーマにした何らかの事業を行っていきましょう。ロータリーデーの事業として地域社会に広報し、ロータリアンだけでなく、青少年を含む多くの地域の方々とともに汗をかいて、最上川をとおして環境問題、そしてふるさとを考えてみましょう。

それぞれのロータリアンが、それぞれの最上川物語をつくりましょう。

今年で３年目になる最上川物語、伊藤パストガバナーが述べられた事に、皆さんは高い志を感じられたことでしょう。その意義を考えるときに私たちが意識することは、水は命の源であり、それを守ることが生命を守ることにつながるということだと考えます。

最近よく取り上げられるプラスチックゴミは、自然界では分解されるまで100年〜200年、もしくはそれ以上かかると言われています。プラスチックゴミが直接動物や海洋生物に取り

込まれ命を奪う他、マイクロプラスチックと言われる微小なプラスチックのゴミとなり、もともと含まれる添加物が環境ホルモンとして悪さをしたり、有害物質を吸着してしまう性質があります。これらが食物連鎖を通じて人体に取り込まれ、特に胎児や成長期の子供に悪影響を与えると考えられています。これ以外にも、未解明の有害物質の含まれた物が河川を通じて海にまで達し、いずれ私たちに逆襲するときが来るのをただ見ているだけでは手遅れになってしまします。

先に述べたように、私たちは行動する職業人です。ロータリアンだけでなく、ロータリーファミリーや地域の方々と協力して郷土の誇りである、最上川の水をきれいに保つため、さまざまな活動を計画・実行して頂きたいと思います。

**自然環境の保護再生プログラム（樹氷再生プログラムへの協力）**

山形県のもう一つのシンボル蔵王の樹氷、その元となるアオモリトドマツの枯死が近年問題視されています。その原因は害虫による食害で、２万本ほどが枯れてしまいました。この再生に山形市が取り組んでいますが、芳賀ガバナーはこのプロジェクトに、ロータリーも協力していくことを考えられました。

この樹氷再生には、害虫の食害問題以外にも、地球温暖化との戦いも関係してきます。最近の樹氷をご覧になり、なにか感じませんでしょうか。最近の樹氷は痩せています。完全な樹氷が形成されていないように見えます。また、樹氷の期間に雨が降り、樹氷が壊れてしまうこともよく聞きます。これは地球温暖化による影響と考えられていますが、アオモリトドマツを植樹しても、温暖化が進めば、結局樹氷は消滅してしまうのです。

それぞれの最上川物語　第３章では、山形の、日本の、そして世界の自然を守るために、最上川の流域全体で活動することを目指しましょう。自然環境の保護や再生、ゴミ問題など様々な問題に地域ごとに取り組んで頂くようにしたいと考えます。

これらのことを総合して考え、最上川物語　第３章では、良いことをしよう、地域や世界の自然と未来を守るためにと題し、最上川流域全てにおいて、つまり最上川に関わる山河全てを舞台として、地区内全てのクラブが社会奉仕事業を展開することを考えて頂きたいと思います。